BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

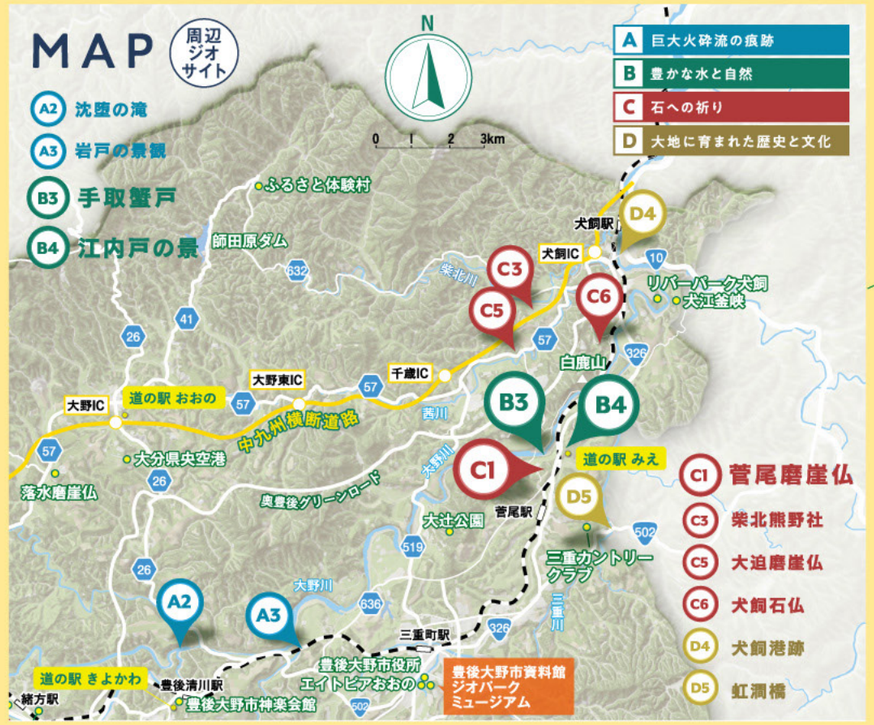
菅尾磨崖仏

SUGAO MAGAIBUTSU / MIE

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

持って、歩いて、ひもとこう。

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark





周辺情報



道の駅 みえ

大分県豊後大野市三重町宮野2791番地1
0974-24-0010 P99台
営9:00～18:00（季節時間有）
農産物や加工品などの特産品に加え、カフェやレストランも充実している。展望所からは「江内戸の景」が一望できる。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 https://bungo-ohno.com
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場1200番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-1001（代表） FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809



豊後大野ジオサイトファイル

菅尾磨崖仏（すがおまがいぶつ）

急な石段を登りつめると現れる、息をのむほど端正なお顔。菅尾磨崖仏は今から約9万年前、巨大噴火を起こした阿蘇火山（あそかざん）より到達した大量の火砕流（かさいりゅう）が冷えて固まった溶結凝灰岩（ようけつぎょうかいがん）の岩壁に彫刻されています。

円満相（えんまんそう）と呼ばれるふくよかなお顔つきや、やわらかく丸みを帯びた肩、そこから流れる納衣（のうえ）の表現など、平安時代中期より流行した定朝様式（じょうちょうようしき）をほうふつとさせることから平安時代の終わり頃の作と考えられており、国の「重要文化財」と「史跡」という二重の指定を受けて大切に守られてきました。

地質、権力、技術がひとつになって。

大野川を挟んでひろびろとした河岸段丘が広がるこの一帯は、古来より人々が暮らす、豊かな土地でした。菅尾磨崖仏は、この地でよくみられる溶結凝灰岩のなかでも特に彫りやすい部分のみを選んでつくられており、立体的な彫り口がとても美しい彫刻です。

平安時代、露天の崖にこのような上質の彫刻が生み出されるのには、上級仏師の高い技術が必要でした。そしてその仏師を招き彫刻させることができたのは、平安時代に現れて豊後武士団として活躍した大神一族と、その長である緒方三郎惟栄の存在が背景にあったと考えられています。

道の駅みえ

カメラポイント

足元注意

トイレ

柴山のヤナ場
地域の人が、ここで鮎などの川魚の漁を行なっています

大野川

平成大橋

地域の人たちに大切に守られてきたんだね

800年以上も前にできたなんてウソみたい

ジオガイドさん

③ 手取蟹戸



この周辺でみられる斜めに切り立った岩場は、およそ9,000万年前の地層である大野川層群犬飼層という地層が地殻変動によって押し上げられ立ち上がった、たいへん珍しいものです。「手で蟹を捕ることができる戸のような岩場」という意味で名付けられたといわれ、江戸時代の地誌「豊後国志」にも岩の形状が「臥龍伏虎の如し」と紹介されています。

江内戸の景

大野川が溶結凝灰岩を長い時間をかけて削り取ってできた河岸段丘と、その上で営まれてきた人々の暮らし。このあたりの景観は「江内戸の景」と呼ばれ、大地と川で構成される豊後大野の地形を象徴しています。道の駅みえから一望することができます。



菅尾磨崖仏



トイレ

① 菅尾磨崖仏

5体ある像の並び方が熊野三山の神々（本地仏）と同じ並び方であることから、紀州（現在の和歌山県）熊野信仰が当地まで伝わったことを示しています。磨崖仏へ登る石段には鳥居が設置されており、「五社権現」と書かれてますが、権現とは、仏菩薩が人や神の姿をして世に現れることで、「神仏習合」そのものです。





千手観音

千手観音の千は無限を意味し、人を救うための能力や手段を無限に持つことを示しています。実際は42本の手で表現されています。



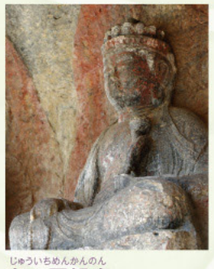
薬師如来

左手に薬が入った壺を持っています。病気を治し、貧しい人には食事や服を与え、今生きている世界で幸せを約束する仏様です。



阿弥陀如来

仏の世界の西の方にあるとされる極楽浄土にいて、私たちに命をあたえてくれる仏様です。両手で「阿弥陀定印」を結んでいます。



十一面観音

頭の上の小さなお顔とあわせて11の面（顔）で、すべての人に救いの目を向けています。左手には蓮の花のつぼみ、右手にはお数珠を持っています。

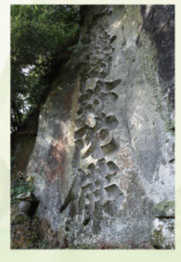


毘沙門天

如来や菩薩など、位の高い仏様を守るためにうまれた仏です。右手には剣を、左手にはお釈迦様の骨が入っているといわれる塔を持っています。

六字名号

宇対瀬地区南の岩壁には、菅尾磨崖仏と向かい合うように「南無阿弥陀佛」の巨大文字が刻まれています。「佛」の字だけでも高さ1.7m、幅2.1mあるこの六字名号がつくられたのは、宝暦4年（1754年）です。



六字名号（徒歩約15分）

② 菅尾磨崖仏の地層

菅尾磨崖仏は、約9万年前に起こった阿蘇火山4回目の噴火で積もった溶結凝灰岩の中でも比較的弱く固まった弱溶結凝灰岩に彫られています。この岩の層の下には、砂利の層があります。これは噴火で発生した火砕流が地表面にある岩石を押し流したり、巻き込んだりしながら高速で流れくだった際、火砕流の中でぶつかり合い破壊された岩石が、火砕流堆積物の一番下に積もったものです。そのさらに下の黄色い土の層は、約9万年前の巨大噴火以前に降り積もった火山灰の地層です。

